



75年目の夏(小さな世間から始める)

また8月がやってくる。今年は75年目の夏である。もう75年、という思いもあれば、まだ75年しか……という思いもある。しかし、どちらの感じ方にせよ、75年という年月が思ったよりも人々の意識を変節させているのでは、という疑念は共通している。

現在の「民主国家 日本」は75年前をそのスタート地点としていることは疑いようがない。「日本」という国が何百年も続いている感覚で私達は生活をし、歴史を語るが、現在の私達の「日本」は、まさしく75年目の日本でしかないことは紛れもない。しかも、本当に多くの人々（もちろん、このなかには日本人でない人も含む）の犠牲の上に生まれた「民主国家 日本」！75年たった今、その姿はどうなっているのだろうか。75年前の、多くの人々の思いや願いを現在にまだ継承しているのか。はたまた、違った方向へと歩み始めてるのだろうか。なにか「民主国家」という言葉が眉唾もののようにも聞こえ始めているこの頃、それぞれがそれぞれの場所で、振り返る必要がありそうだ。

神奈川新聞（7月17日）に作詞家の「なかにし礼」さんの文章が載った。ご本人の引き上げ体験を原点に据え、現在の日本の状況に警鐘を鳴らしている。

その中で、一番衝撃だったのが、避難用の軍用列車に乗り込んで引き上げる際の描写だ。列車の「箱枠」にしがみついた満蒙開拓団の人を、立錫の余地もない車内の将校から日本刀を振りかざして命令され、7歳になろうとするなかにし少年は、列車にしがみついた満蒙開拓団の人の手を振り払ったという事実である。「戦争は人を加害者にします。」となかにしさんは言う。

大きな社会の動きの中で、はっきりとした自覚もなく、私達は具体的な生活の場面で被害者の側に置かれたり、加害者の側に置かれたりする。そしてそれは、気がつかないだけで今でも進行していることだ。

例えば、グローバル経済という聞き慣れた言葉の裏では様々なことが起きている。安い賃金の国の人々に製品を作らせ、高く売れるところで売る。作った人たちがその製品を手にはしない。製品を買っている国では、海外の安い労働力に押され、雇用は不安定になり格差が生まれるようになる。また、国によっては、資源が枯渇するまで海外に売られ、あとには何も残らない。プラスチックゴミは発展途上国に運ばれ、環境破壊が局地的に進行している。

まさしく、グローバル経済という構造にも、加害と被害が縦糸と横糸のように織り込まれている。「みんなが豊かになる」ことが経済活動の目的であるとするならば、願いは裏切られ、グローバル経済や金融経済は、富を少数に集めることに寄与してきていると言わざるを得ない。これが、現在世界中の国で、生き残りをかけて進めていることだ。日本社会では、上級国民という言葉までも平気で使われ始めているではないか。

自らが直面する加害と被害を、まずはできるだけ正確に受け止める。私たちが75年前につながろうとするとき、まずは求められる態度なのかもしれない。

なかにし礼さんはこうも言う。「国家は残酷で非道なことをすると肌身で感じました。・・・国と国家は全くの別物です。日本という国は極東の片隅の小さな島国。でも国家は時の権力者がデザインしたもので一過性のものです。・・・国家を監視し、批判し、良い方向に導くことが必要です。」

75年前、新しい国として日本がスタートした時に大切にしようとしたものが、あまりにも捻じ曲げられてきてはいないだろうか。国の権力によって多くの命が奪われるという悲惨な体験の後に、日本という国がまとった「平和国家」「文化国家」の装いは、そんな

に簡単に身に合わなくなるものなのだろうか。

第二次世界大戦での日本人戦没者を日本政府は310万人と発表している。世界全体では、8500万人という統計もある。こんなにも多くの命が失われて75年。今、私達はこれだけ多くの霊(たましい)に何を語りることができるのだろうか。あなた達の、悔しく、悲しい思いを私達は忘れていません……と言えるのだろうか。「歴史」とは引き継ぐことでもあるはずなのに、一方では、歴史は徐々に修正され、記憶は曖昧に薄れようとしている。軍艦島の世界遺産登録では、朝鮮出身労働者の説明を巡って紛糾しているし、今年は中学校の教科書が採択される年でもあり、横浜市や藤沢市で選ばれる社会科の教科書が注目されている。少しづつ、少しづつ、意図的に歴史への評価は変えられてきているのかもしれない。北方領土に関して、「戦争で取り戻すしかない」と言った国会議員が問題にされていたが、結構そう思っている議員さんが他にいたとしても、全く不思議ではないような状況である。イージスアショアの問題では、あっさりと「自衛的敵基地攻撃」という言葉が出てきたのには驚いた。(怖い、怖い!)このままだと、10年後、戦後85年あたりではどうなっているのだろうか。

どうすべきか。なかにし礼さんは次のように言う。「人をあやめるものに対する嫌悪感を育むためには本を読むしかありません。『武』に対しては『文』しかない。」

我々日本社会の気質として、昔から為政者である「おかみ」に頼る傾向が強いのもかもしれない。「民主国家」と言いつつも、際どいところは「おかみ」に任せ、戦後私達一人ひとりが引き受けなければいけなかったことを、意外とあっさり背中の荷物からおろしていたのかもしれない。その意味では、私達自身が今の状況に対する「加害者」であるのかもしれない。ネットで芸能人の政治に関する発言を封じようとする風潮など、まさしく私達が作り上げてきた、「政治問題はタブー」という姿勢の現れではないか。このままでは、310万人の霊(たましい)に胸をはるわけにはいかない。

私達は個々それぞれで、自分の周りの小さな「世間」の中で、歴史を継承していく努力を始めていくしかないのかもしれない。為政者は、自分たちに都合の良い歴史が大好きだ。都合の悪い歴史は見せたくない。だから為政者が語る歴史はうさん臭い。私たちに必要な歴史は、私たちのすぐそばにある。私たちに必要なのは、民衆が目当たりしてきた事実だ。被害の側に立って泣き、加害の側に立って苦しむ。そんな隣りにいる人の体験を、思いを受け止め誰かにつなげる。本を読み、騙されない知識と思考を手に入れる。(最近、随分と怪しい本がたくさん本屋に並んでいるから要注意だけど……)そんな、「犠牲となった人々の・・家族、親類、知り合い、地域・・の人としての行動」が、戦後生まれた「民主国家 日本」を守ることに繋がっていくのかもしれない。おこなってきたようでおこなってはこなかったこと……小さな声を、自分のいる場所でつぶやくこと……それしか、先は見えてこない気がする。

75年目の夏が来る

コロナ騒ぎで大変だけど、それでも本来であればオリンピックの声にかき消されていたかもしれない75年目の夏ただけに、じっくりと考えてみたいと思う。

8月～10月前半のEd.ベンチャーの学習会

学習会は、Zoomを使ってのWeb学習会で開催しています。参加ご希望の方は、担当者もしくは事務所に連絡をください。Web会議IDとパスワード、資料の受取方について、連絡させていただきます。

理論学習会 ●10月7日(水)19時～ 講演会:(仮)保護司が会う子どもたち

授業研究会 ●8月20日(木)19時～

内容:同一空間の中で、発達に応じた課題と自発的な学習の組織化は可能か

外国人の子ども理解のための学習会

●8月4日(火)19時～ ルーツ別の来日の経緯を知る

●9月12日(土)13時半～ 事例研究会

インクルーシブな社会を目指す学習会

●9月2日(水)19時～ 二羽泰子氏企画学習会2

講演内容:世界のインクルーシブ教育 ー欧米からアフリカまでー

●10月14日(水)19時～ 清水睦美企画学習会

講演内容:進む心理主義化ー特別支援教育とインクルーシブ教育の違い



【理事の一言】周りにくしゃみや咳をしていた人がいたら何を思うだろう。多数の人は心配になるはず。「自分が心配なの?」と聞くと、「何言ってるの、風邪をひいて辛い思いをしている人が心配なんだよ。」そう答えたのは大人よりも大人な子どもたち。マスクをしていない、咳をしているからといって、自分の心配をしていた自分が、なんだか恥ずかしくなる。子どもたちの考え方のような人間であふれた世の中は、きっと素敵なのだろう。(T・B)